

< 2004年8月19日プレスリリース >

<http://narc.naro.affrc.go.jp/chousei/shiryou/press/natane/index.htm>

ナタネ・ヒマワリ油を精製した100%バイオディーゼルで業務用マイクロバスを運行 - トラクタ燃料などの地域自給システムへの第一歩 -

< 当該研究成果のポイント >

中央農業総合研究センターでは、超臨界メタノールを利用したSTING法という新しい変換技術で、ナタネ・ヒマワリ油や廃食用油からバイオディーゼル燃料に変換する技術を開発しました。この変換技術では、従来のアルカリ触媒法で問題となっているグリセリン等の副生成物を生成しません。

この技術をもとに精製したバイオディーゼル燃料では、排気ガス中の窒素酸化物(NOx)は軽油に比べ4割削減され、炭化水素も3割減少しました。廃食用油を原料にすると、生産コストは1リットル当たり78円と試算され、市販軽油と同等です。

このバイオディーゼル燃料100%でマイクロバスの運行を開始することにしました。

< 期待される効果・今後の展開など >

バイオディーゼル燃料を用いることにより、窒素酸化物や炭化水素の減少を図ることができます。

当センターでは、谷和原村にある水田圃場を中心にナタネ・ヒマワリの輪作試験を実施しており、そこで生産される食用油を一旦食用に供し、廃食用油を回収してバイオディーゼル燃料を精製し、当センターで使用するトラクタ燃料をまかなうという、エネルギーの地域循環・自給モデルを計画しています。

< 研究所名 > (独) 農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農業総合研究センター

< 担当者名 > 中央農業総合研究センター

関東東海総合研究部	総合研究第2チーム	岡田謙介
		松崎守夫
作業技術研究部	農産エネルギー研究室	谷脇 憲
		飯嶋 渡
		加藤 仁

< 連絡先 > 中央農業総合研究センター 企画調整部 情報資料課

前田榮一

電話 029-838-8979